医療最前線

デイケア・デイサービス等における新型コロナウイルス感染症対策について

作業療法士　木曽 愛子

■はじめに

新型コロナウイルス感染症は、令和５年５月８日より「５類感染症」と位置付けられました。これにより外出自粛、陽性者登録などがなくなり、誰もがより自由に行動することができるようになりましたが、まだまだ油断できない感染状況であることに変わりありません。

そのため、重症化リスクが高い高齢の方が主に利用されるデイケア・デイサービス（施設に通うタイプの介護サービス）事業所は、感染症の予防やまん延防止のための指針・マニュアルを整備して運営にあたっています。

今回は、そうした通所系サービスが実施する新型コロナウイルス対策について説明していきます。

■一般的な対策

・手洗い

手や指についたウイルスは、洗い流すこと秒の手洗いだけで１０の数は、流水による15すぐと１万分の１に減らせます【表１】。

アルコール消毒液を使用する場合は、濃度70～95％のエタノールを用いてよくすりこみ時間を決めて拭き掃除を行います。

消毒や除菌の効果をうたうさまざまな製品が出回っていますが、目的にあった製品を正しく選び、正しい方法で使用することが大切です。使用方法、有効成分、濃度、使用期限等を確認し、情報が不十分な場合には使用を控えるようにします。

【表1】手洗いの時間・回数による効果

手洗いの方法	残存ウイルス数（残存率）*
手洗いなし	約1,000,000個
流水で15秒手洗い	約10,000個（約1%）
ハンドソープで10秒または30秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	数百個（約0.01%）
ハンドソープで60秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	数十個（約0.001%）
ハンドソープで10秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎを2回繰り返す	約数個（約0.0001%）

＊：手洗いなしと比較した場合

出典：森功次他:感染症学雑誌、80:496-500,2006

・換気

新型コロナウイルス等の微粒子を室外に排出するためには、換気扇等を利用して部屋の空気を入れ替えることが重要です。窓を使った換気を行う場合、風の流れができるよう、２方向の窓を数分程度全開にする形で、できるだけ頻回に（できれば１時間に２回）実施するようにします。

・マスク

現在、マスクの着用は個人の判断に委ねることが基本となっていますが、通所系サービスを利用される高齢の方は重症化リスクが高いため、利用者さん、職員、面会者、業者等はマスクを着用することが推奨されます。

・モノに付着したウイルスへの対策

テーブルやドアノブ等には濃度０・05％の次亜塩素酸ナトリウムが有効です。椅子や手すり等よく触る場所を中心に、通所系サービス終了後や食事前など

■送迎時の対策

送迎車両も換気が重要ですので、複数の窓を開けて換気を行い、運行します。

送迎車両に利用者さんが乗車される際は、まず体温を計測し、発熱が認められる場合には利用をお断りします。その際には、ケアマネジャーに情報提供の上、訪問介護等の提供が必要かを検討します。

また、利用者さん、送迎担当職員のいずれも、手洗いや手指消毒を積極的に行います。さらに、職員は利用者さん１名の乗降車ごとに手指消毒を行い、職員自身が接触による感染拡大の原因とならないようにします。

送迎終了後に車内を清掃する際は、十分換気した後に、濃度70～80％のアルコール消毒液や濃度０・05％の次亜塩素酸ナトリウムなどで、ハンドル、座席や手すり、ドアノブ、シートベルト等の拭き掃除を行います【写真１】。

■食事提供時の対策

食事の際は当然、利用者さん全員がマスクを外すため、飛沫感染対策が必要です。

食事スペースに余裕があれば、対面で座らず、全員が一方向に向かって座り（スクール形式）、お互いの距離を１m程度離せると良いです。

職員が食事介助をする場合は、利用者さんの斜め後ろに座り、会話をできるだけ避け、うなずきサイン等でコミュニケーションを行うなど、唾液を浴びないよう注意します。

また、箸や食器類の洗浄は通常通りで問題ありませんが、消毒をする場合は、80℃の熱水に10分間さらすことでウイルスを死滅させることができます。

■入浴サービス時の対策

入浴時も、利用者さんがマスクを外すため、飛沫感染対策が必要です。

まずは、脱衣場や浴室が過密状態にならないよう入浴スケジュールを調整します。また、浴室内の窓を開け、扇風機・換気扇を使用して換気を行います。

入浴介助を行う職員はマスク着用が推奨されていますが、特に夏場は熱中症のリスクがあるため、水分摂取や熱中症対策グッズを利用するなどの対策が必要です。

■リハビリ時の対策

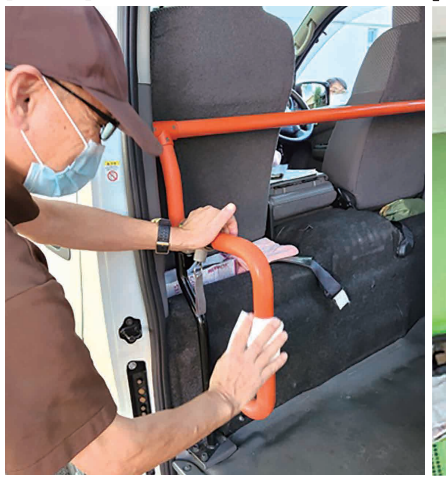
リハビリ時は、マスクの着用によりある程度の感染予防が可能ですが、リハビリ器具の手で握る部分（平行棒や歩行器のハンドルなど）を、１名ごとに拭き掃除をするとなお良いです【写真２】。拭き掃除はアルコールや次亜塩素酸ナトリウムである必要はなく、通常の環境クロス（拭き掃除を行う際に使用する洗浄成分や除菌成分を含浸させたクロスなどで十分です。

■最後に

新型コロナウイルス感染症については、国や学会がウイルスの特性や感染対策等について最新の情報を発信しています。介護現場もアンテナを広げ、絶えず最新の情報を確認して対策を実践していますので、皆さま安心して介護サービスをご利用ください。

（梶川病院（広島市西区天満町）作業療法士　木曽愛子）

【写真１】送迎車両の拭き掃除



【写真２】リハビリ器具の拭き掃除